

地域の学びを語る

出会いの広場2

- ① 報徳塾OB・OG会（今市市）
 - ② 環境協働組織・グラウンドワーク庄内（鶴岡市）
- アドバイザー 成田委員（創造ネットワーク研究所代表）



成田 皆さん今日は。ただいま紹介いただきました、余目町で地域づくり団体創造ネットワーク研究所の代表を務めております成田と申します。ここの山形学の企画委員もさせていただきながら、皆さんと一緒に勉強をさせていただいているところです。今日は交流会ということで、県外からお越しの方をはじめ、県内から参加されている皆さんが、出てよかったという交流会にしたいと思いますので皆様の協力をお願いいたします。

自己紹介の方はさきほど済ませておりますので、すぐに事例発表を進めたいと思います。質問などは2つの団体の事例発表が終わった後に、一緒に考えていきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは最初に報徳塾さんの方からお願いいたします。



関 皆さん今日は。栃木県の今市市からまいりました。報徳塾の活動をこれから発表したいと思います。

私、ここの遊学館に来るのは2回目で、以前地域学セミナーにお邪魔したことがありましたし、また先日、今市市の方に天童市の皆さんが視察にお出でになりました。15人ぐらいですか。そんなことで今日はまた天童市の方々とお会いする機会がございました。その話をしていますと私たち3人で20分間しか時間がないものですから、私は最初前段7分やります。まずこの映像をご覧くださいと思います。

まず、私は市民大学校報徳塾を行政がやっていた時の話をします。その後に阿久津さん、大嶋さんの方から、報徳塾OG・OB会の活動を報告させていただきます。

これが今市市の映像です。今市という町は人口6万3,000人、一般会計がだいたい203億です。水と緑、それと世界に誇る杉並木、杉並木はギネスブックに載っております。それと二宮尊徳、二宮金次郎というか、尊徳翁終焉の地です。

杉並木がこのように町の中を走っておりますが、なぜか日光杉並木です。今市という名前が悪いのでしょうか。ここでだいたいうけていただくのですが。

これが杉並木の中です。これは二重指定を国から受けているという文化遺産でありまして、延長が37キロメートル。世界一の並木街道とギネスブックに載っていて380年の歴史をもっております。

こういう町です、今市というのは。それと、さきほど申し上げました二宮尊徳翁の終焉の地です。

それで二宮尊徳が唱えた報徳思想をまちづくりの方に生かしましょうということで、平成9年より報徳のまちづくりを推進しておりますが、「市民大学校報徳塾」もそのような背景で生ま

れた塾でございます。

今市市はお陰さまで今日も最初に紹介されておりましたけれども、宇都宮大学の広瀬先生のお陰などもありまして、生涯学習ではちょっと有名みたいで、視察の方も多くいらっしゃいます。

市民大学校報徳塾というのは行政主導でまちづくりのリーダーを育てるという塾で、平成9年に開校いたしました。この後お話もあるかと思いますが、平成14年などは卒業後に組織された報徳塾OB・OG会が一大イベントを実施しているというような経緯がございます。

今年、今市市は市政50周年になるのですが、市民大学校報徳塾の開校なども広報の方に出ているという、今市市にとっては生涯学習の分岐点になるというような画期的な取り組みだったのではないかと思います。

これが平成9年6月の開校式の様子です。

市民大学校報徳塾はどういう塾かということ、新たな視点からまちおこしや事業分野の発見に目覚める人と起業家等の育成を目指した塾です。定員が30名。修了年限が3年間、会費が年間3万円。講座と課題研究とグループ課題研究で構成されました。運営スタッフと事務局で運営にあたりましたが、塾の開催数は3年間でだいたい150回開催をしたという塾です。この塾は一般的にいわれている趣味教養などをやる塾とは違っていて、あくまでまちづくりのリーダーを育てましようということで開催をいたしました。

塾の特徴ですが、20代から60代の方々、男女比半々ぐらいの方々に集まっていたいて、異業種の方々の交流の場となりました。

報徳塾の運営にあたっては、「塾は生き物のごとく変化する」という、固定したプログラムを決めたらそれを進めるのではなくて、希望や状況を踏まえて臨機応変に変えたという特徴があります。

報徳塾は「講座」と「課題研究」と「グループ課題研究」という3つの柱で構成されていました。詳しくは皆様のお手元の資料にございますので、ご覧いただきたいと思います。

お呼びした先生方は、頭の体操で有名な多湖先生。今市市の出身で東京芸大の教授をされている手塚先生。国会議員とかをたくさん育てた松下政経塾で教育を担当されていた上甲先生。当時の市長、現在の栃木県の知事。ロボットコンテストで大変有名な森先生。火の玉の研究で有名な早稲田大学の大槻先生。クロネコヤマト宅急便の生みの親、都築先生。テレビの政治番組でお馴染みの福岡先生。弘前大学の城田先生などと、発想を転換するという話をしてくださる先生方を数多くお呼びしました。

塾の中では課題研究などもやりましたけれども、これも東京からお招きした専門の経営コンサルタントの先生に個別指導をいただきながら取り組んでまいりました。中間報告会、研究発表会などもやってまいりました。

グループ課題研究として、起業家、まちづくり、教育、農業の4つのグループが誕生しまして、研究を進めてきたのですが、ここにたくさんの研究テーマなども書いてありますが、鯉のぼりを泳がせるという、まちづくりの取り組みなどを私の隣にいます阿久津さんなどが塾生の頃から取り組みを始めていましたので、この後説明があるかと思います。

本当にゆっくりとお話をしたいのですが、最後に卒業旅行じゃないですけども、上海に行きました。ちゃんと皆さん積み立てしていききましたので。

卒業してOB・OG会が結成されました。この広報誌などもメンバーの方でつくっているのですが、このような取り組みを実際にOB・OG会としてどのようにやっているのかをこれから映像を交えて阿久津さんの方からお話していただきます。

阿久津 OB・OG会の遊びの部分についてご報告させていただきます。大谷川に鯉のぼりを泳がせる活動ですが、平成11年の5月5日から行なっております。この時期、子どもたちがだい



ぶ荒れていたということで、子どもたちに夢と希望を与えられたらいいんじゃないかということで、当初38匹だったんですけども、それからスタートしました。ここは河川公園になっておりまして、子どもたちが遊んだりしています。去年はこちらにいます関さんの努力によって、子どもマーケットも開かれました、盛況に行なわれております。

愛の一言メッセージなんですが、愛に関するメッセージ、川柳を応募いただきまして、行灯にして、これを市街地に展示するという形です。市街地活性化とかからめましてやっています。

それから北海道網走学び塾との交流会なんですけど、去年の6月28日ですか、お互いに交流をもちまして、意見交換をしました。

本物ウォッチングですが、これは今市の本物、食事、食物、いろんなものですね、それらを自分たちでもう一度見直そうと始めました。ここは二宮さんの尊徳仕方というんですか、報徳仕方農家を見に行った時です。

これは蕎麦打ちですが、地産地消、ソリティアンの方を大事にしようということで、やっております。今市市は「イマイチの蕎麦」ではなくて、「いま一番の蕎麦」ということで、頑張っております。

これからは実際に活動しましたことを、こんなふうにやりましたということでお話したいと思います。

愛のメッセージの方は、メッセージ部門と川柳部門に応募いただきまして、去年は700点ほど応募いただきました。それを会員がこういう形で、手作りやっております。この人、見ていただきます。慣れていないので同じことを何回もやったりと。こんなふうやっておりますけれども、そのできたものを商店街の大通りに飾るわけなんです。この人、なかなか手つきがいいと思うのですが、業者の方に頼んでいるのではなくて、自分たちでやっているわけなんです。いろんな方たちがいるものですから、この辺は私に任せてくださいとか、そんな形で和気藹々とやっております。

こんな形で設置しているわけなんです。たまにこういう素人な方も危なっかしくやっているので、ちょっと心配したこともあったのですが。

女性の方も積極的に出ていただきまして、梯子を支えていただいたり、どっちかというと触っているという感じなんですけれども、楽しそうにやっている様子がわかるのではないかと思います。

光が入ると、こんなふうになんか温かく感じます。これは宇都宮大学の学生なんですけど、手伝っていただきまして、どちらかというと、仕事よりも弁当の方を一所懸命に食べていたとか、そんな経過があったということです。

これは設置が終わりまして、いかにもやったぞという満足感というんですか、その達成感を、カメラ目線も一応気にしながら、だいぶ汗を流したという形でやっております。

表彰式の様子ですが、これも私たちの手作りということで、ピンクの文字にしてみました。こんな形で楽しんでます。

市長さんにも参加いただいたり、これ、見ていただくと分かるのですが、小さい子から、年配の方、体が悪くて出られなかったとか、いろいろありますが、いろんな方の応募がありました。それを発表して、入賞者、優秀賞という形でやったのですが、これからは説明を省きますので、こんな形で、それぞれの作品が設置されたということです。なかなか味わい深いものがありました。

この後、愛のともしびコンサートなんですけど、さきほどの愛のメッセージに合わせまして、

老舗の酒蔵を利用して、ソプラノ歌手の石井さんという方がいるんですが、そちらのコンサートをやったということです。行灯、入り口からずっとあったのですが、画像がよく撮れています。実際もそれなりの雰囲気を出しておりました。これは酒蔵の上に会場を造りまして、この日は2月だったので、寒く、お客さんの方ですね、このように集まっていたのですが、ここでは杜氏さんの歌を聞いたり、この方が今回、コンサートをやってくれた方ですが、寒いのでだいぶ震えていたと。こんな形です。

いま出ている方もそちらにいますけれども、今回開催を計画してくれました大木さんという方なんですけれども。こんな素敵な歌が聴けまして、今年も暑い夏、扇風機のないところでやったということで、この先生にしてはご迷惑かもしれないんですけれども、2月の寒い中、8月の暑い中と頑張っていたでいます。



大嶋 では組織と、なぜ報徳塾ができたかということを引き続いてお話しします。1つの団体で3人も出てきて申し訳ないと思うのですが、私たちそれぞれが活動しているものですから、会長がすべて把握しているとは限らないものですから、それでいろんな人が出て説明するような形になっております。

今日、私が説明するのは二宮尊徳の遺訓という資料が入っているかと思いますが、それと冊子をつくっていただきました、後から5枚目の報徳塾OB・OG会の活動、それと今市楽（いまいちがく）と呼んでいただきたいのですが、今市楽という冊子についてご説明させていただきます。

私たちが純粋に活動するようになってから4年が経ったわけなんです。初の2年間は他の団体と同じように、会長がいて福会長、会計、書記の役員構成で、執行部が事業計画を立てて実行するという体制で事業を行ってまいりましたが、すぐに行き詰まってしまったんですね。役員さんだけがやけに忙しくて一般の会員は関わりが少なくなったということの反省で、委員会活動を中心にやるようになりました。それがお手元の報徳塾OB・OG会団体概要の用紙の真ん中の段にあります「まちづくり活動」、生涯学習という活動なんです。これは委員会が中心になってやっておりますので、委員長が主に企画して実施していくわけです。だからその都度、会議をもってその都度周知徹底してということではなくて、その委員会が責任をもって企画運営して周知をはかるという形をとっています。そうでないと、本当にみんな忙しいんですね。第一線で活躍している人たちばかりがまちづくりに関わっているものですから、時間がとれないもので、委員会が責任をもって企画運営まで行ってしまう、その後みんなに周知して協力しあって事業を行なう形になってます。その中で、全ての委員会と、その他のそれぞれ会員が関わっている団体を巻き込んで行ったのが愛の一言メッセージであり、灯火コンサートであるわけです。

その他にもいろんな委員会がこのようなさまざまな活動をしているんです。地元産の木材を使って学童の机とかイスを生産して、それを市に納めるとか、伝統食の調理講習会を開いてその作り方を学ぶというような活動をしております。

そんなわけで会長といえども全てを把握するのは困難なことで、委員会に責任をもってやっていただく。その辺はお互いの信頼関係で了承してやっているという形です。

それと、私たちがだんだん慣れてきて、少しずついろんな活動が上手になってきたんですね。それをやって会員の中だけで楽しむのはもったいないということで、それを記録に残そうと、今市学、学ぶというはおこがましいので、今市楽、楽しむという冊子をつくりました。一番最初の表紙を見ていただきたいのですが、これは掘っ立て小屋かなと思われるかもしれませんが、今市は杉線香、お線香の全国生産量の70%を占めているんです。地元の杉を水車で製粉し